

3-5 安全管理

1. 要約

2003年度、安全管理室では、SPring-8本体の変更許可を2回、ニュースバルの変更許可を1回受けた。また、化学薬品管理規程や遺伝子組換え実験実施安全管理規程を改定した。さらに、危害予防規定などを制定して、高圧ガスの第一種製造事業所としての管理を開始した。

2. 放射線安全管理

2-1 許認可申請

2002年度末（3月31日）付けで申請したSPring-8の第13次変更申請は、5月21日付で許可となった。変更の内容は以下の通りである。

- 1) 放射光ビームラインBL05SSおよびBL17SUの新設
- 2) 加速器診断ビームラインBL38B2の出力を蓄積電流200 mAまで増強
- 3) 陽電子加速の廃止とブースター・シンクロトロン of 蓄積運転に対応する各加速器の性能、使用目的、および使用方法の変更
- 4) 直線加速装置（RF電子銃試験装置）の性能変更および増設
- 5) 密封された放射性同位元素（メスバウア線源）の使用場所と保管場所の変更

蓄積リングのトップ・アップ運転導入のためのSPring-8の第14次変更は、7月24日に申請し8月18日に許可を受けた。

ビームライン1本の新設を内容とするニュースバルの変更は、12月16日に申請し2004年1月6日付で許可を受けた。

この他、理研の独立法人化や原研・理研の理事長交代などに伴い、放射線障害予防規定の変更を2回（4月25日および11月7日）、氏名等の変更を2回（10月30日、2004年1月27日）、それぞれ届出た。

2-2 放射線専門部会と放射線安全委員会の開催

大型放射光施設安全性検討委員会・放射線専門部会を5月28日と2004年2月15日に開催し、それぞれ、トップ・アップ運転に係わる放射線安全と、蓄積リング・ニュースバル同時振分入射に係わる放射線安全（第15次変更の内容）を検討して戴いた。SPring-8本体の放射線安全委員会は、第14次変更申請を6月12日に、また、第15次変更申請を2004年2月26日に、それぞれ審議した。ニュースバルの放射線安全委員会は、第5次変更申請を12月8日に、第6次変更申請を2004年3月12日に、それぞれ審議した。

2-3 放射線業務従事者

2003年度の放射線業務従事者数は、以下の表の通りであ

る。2003年度を通じて、個人被曝測定で有意な測定値を記録した事例は、SPring-8本体およびニュースバルとも皆無であった。

事業所名	男	女	計
SPring-8	4430	478	4908
ニュースバル	571	12	583

3. 化学薬品安全管理

9月1日付で、化学薬品等の入手・使用・保管・廃棄に関する従来の規則を改定し、「化学薬品管理規程」として制定した。また、この規程の運用を補助するため、試薬検索・管理システムを導入した。

ドラフトなどに関する労働基準監督所への「特定化学設備」の届出を順次実施するとともに、放射光実験に伴う実験排気の処理手順を整備した。また、労働安全衛生法の規定に従って有機溶剤等の使用場所に係る作業環境測定を実施するなど、遵法措置を進めた。

4. バイオセーフティ

8月1日付で、その使用に倫理的な問題を伴う人体由来の試料に関し、「ヒト材料を用いた放射光利用研究の実施要領」を制定した。また、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」の制定に対応し、2002年度に制定した「組換えDNA実験実施安全管理規程」を、2004年2月19日付で「遺伝子組換え実験実施安全管理規程」に改定した。

5. 高圧ガス保安管理

6月に危害予防規程と関連する諸規則を制定した（第2種製造）。ダイヤモンドアンビル試料充填装置の移管に伴い、8月に危害予防規定を変更し、第1種製造事業所としての高圧ガスの製造を開始した。これに伴い、保安係員の教育訓練を実施し、2004年1月に高圧ガス保安会議を開催した。

ガスボンベによる高圧ガスの貯蔵状態と使用状態の管理を徹底するため、状況調査を実施した。

6. 課題安全審査

2003B課題安全審査委員会を7月7日に、また、2004A課題安全審査委員会を11月28日に開催した。